



肺がん



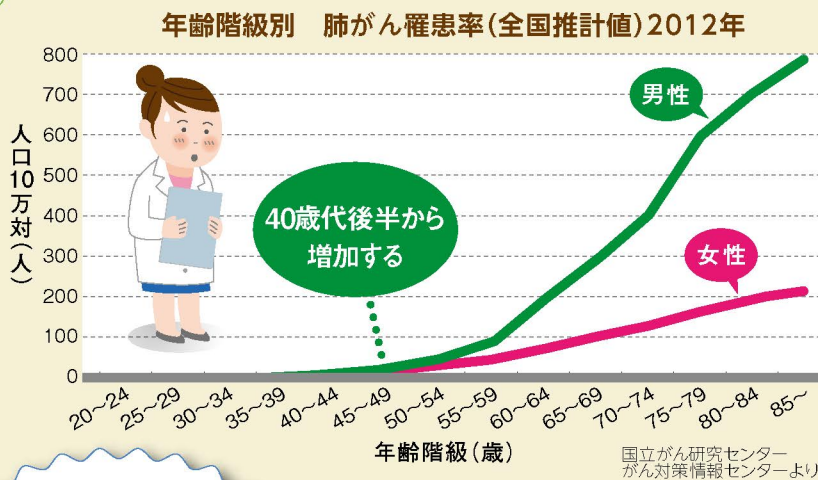
日本人のがんによる死亡原因のトップである肺がん。そのうち6割程度を占めていると言われる肺腺がんは、たばこを吸っていなくてもかかることがあるので、喫煙の有無にかかわらず、40歳以上は毎年、肺がん検診を受けることで肺がんの(二次)予防、早期発見の道が開けます。

国立研究開発法人
国立がん研究センター 東病院
呼吸器外科長
坪井正博先生



どれくらいの方が肺がんにかかっている？

肺がんの罹患率は、40歳代後半から増加し始めます。死亡数では、長年1位であった胃がんを1998年に追い抜き、日本人のがん死亡の1位になりました。日本では肺がんの発生原因のうち、男性で69%、女性で20%程度がたばこことされています。また、受動喫煙者は、受動喫煙がない人に比べ、肺がんのリスクが20~30%程度高くなると推計されています。一方で、日本人に多い肺腺がんは、喫煙の有無にかかわらず発症するので、注意が必要です。



■肺がんの病期別生存率

全国がん(成人病)センター協議会の生存率共同調査
(2016年2月集計)より

病期(ステージ)	5年相対生存率(%)
I	83.6
II	49.0
III	22.9
IV	5.0
全症例	44.6



とくに注意が必要な人

右記の方は肺がんにかかるリスクが高いため、生活習慣を見直すとともに、肺がん検診を積極的に受けることをおすすめします。

- 喫煙者
- 受動喫煙者
- 肺がんにかかった血縁の家族がいる人
- アスベストの吸引歴がある人

肺がん検診はどんな内容？

肺がん検診には、胸部X線検査、^{かくたん}喀痰検査、精度の高い低線量胸部CT検査があります。X線検査は、フィルムに映し出された影などをチェックして肺の状態を調べます。末梢型肺がんの発見に有効ですが、骨や心臓などに重なる部分では、ある程度の大きさにならないと発見できません。

40歳以上は、喫煙の有無にかかわらず、年に1回肺がん検診を受けましょう。

喀痰検査は、痰の成分を調べるもので、中心型肺がんの発見に有効です。50歳以上で喫煙指数(1日の喫煙本数×喫煙年数)が400ないし600以上の人、もしくは40歳以上で6ヵ月以内に血痰のあった人に、受診をおすすめします。

肺がんの予防法は？

喫煙者には、禁煙が肺がん予防の第一歩になります。自分の肺がんリスクを減少させるだけでなく、周囲の人を受動喫煙による肺がんから守ることができます。最近増えてきている電子たばこ^{*}にも、有害物質が含まれるものがあるので、利用はおすすめできません。

また、胸部X線検査、低線量胸部CT検査などでがんを早期に発見できれば、身体への負担の小さい治療法を選ぶことができる上、死亡するリスクも減ります。

^{*}香りや味のする溶液や乾燥葉を電気式の器具で加熱して蒸気を吸うたばこ

